

4月19日 土砂加持法会

四月十九日に土砂加持法会が八年ぶりに朝日寺で行なわれました。土砂加持法会は先祖供養を趣旨とした瀬戸内市結衆寺院十五ヶ寺の持ち回り行事で、晴天の下、第三回薬師如来祈願法会（花まつり）を兼ねて盛大に行なうことができました。例年の花まつりの参加者二〇〇人弱に加え、一三〇名（地元の子供たちや、遠くは東京大阪など県外からの帰省、また檀家外からも多数ご参加下さいました。）のお稚児さんと、その父兄（三世代、中には四世代揃ってのお参りも！）で境内は終始大変賑やかでした。

お稚児さんの親には、幼い頃に朝日寺で稚児行列を経験した方も多数おられ、また学生時代の同級生や旧知の仲との再会など、温かなふれあいも生まれた一日でありました。稚児行列にあたっては、駐車場の混雑を最小限に抑えるため、集合場所を五ヶ所に分散させ、シャトルバスでの送迎を行いました。行列開始場所の庄田運動広場ではワッカファームさんがバンド演奏で皆さんを楽しませて下さる中、予定通り午前十時に稚児行列開始。朝日寺へと続く参道は大勢の人で埋まりました。

法要の方も、一九名の僧侶によって滞りなく朝日寺壇信徒の先祖供養が行なわれ、音響で境内中に読経が響く中、行事が進行しました。また、この日のために熱心に練習してこられた御詠歌隊のみなさんの声も境内に響き渡り、盛大な行事に華を添えました。



ワッカファームによるバンド演奏



本堂では稚児加持が行われた

側の新しく境内になつた土地では、うどんやこんにゃく、の御接し、待たさる屋の、子供の、アメューズ



みなさんの御詠歌隊



お稚児さんにお釈迦様に花を捧げる

もなく、盛大で賑やかな行事が無事に済みましたこと、今一度深くお礼申し上げます。また、ご厚意で御接待品などを用意して下さいました方にも厚くお礼申し上げます。

春の思い出

二〇〇九年四月十九日
敷井 川野 敏子

四月だというのに25℃以上の暑い日が続く毎日です。今日は、七年に一度のお寺の大イベント土砂加持法会の行なわれる日です。縁あって、今回我が家の孫、二歳・七歳の兄妹も稚児行列に参加することになりました。

午前八時三十分集合ということ、朝から家中でんやわんや、汗だくで何とか用意ができる。着慣れない衣装に孫たちも少々緊張気味。でも普段見慣れない格好で、別の孫たちを見た気がした。

集合場所につくと、それぞれ稚児本人、両親に祖父母、大変な人数に圧倒され気味、各所でシャッターの音が聞こえる。迎えるバスで朝日寺駐車場に着く。少々時間があり暑さも手伝って二歳の子には少し荷が重いかと感じた。

やがて案内人の誘導でお寺に向けて稚児行列が始まった。きらびやかな冠・衣装を身に着けた稚児が、運動広場からお寺まで続いた。どこかで見た映画のワンシーンのように思えた。

お寺では朝日寺を始め多数の住職の読経の声が聞こえ、身の引き締まる思いの中、かつて巡った四国八ヶ所のお砂踏みしながら本堂にお参りをする。子供たちもみんな手

11月10日 直島参拝ツアー

寺院参拝と観光を兼ねた、秋恒例の日帰りバスツアー。今回は島で唯一のお寺が同じ高野山真言宗であり、いま芸術で話題の、香川県直島町を訪れました。皆さんの関心も高く、総勢91名（満員御礼）のご参加でした。

直島訪問記

下寺 久本 翼

十一月十日朝日寺。秋の日帰りお寺巡りをうす曇りの朝七時出発する。今年初めて直島に行く人が多く、二台の大型バスは満員九十名の参加者で、二台揃って瀬戸内インターに入り、車内では住職より案内安全・交通安全の祈願の後、般若心経を皆さん声揃えてお唱えした。土砂加持法会・稚児行列のビデオを見ながら、宇野港フェリー乗り場に到着。宇野港から直島まで穏やかな波の上を進み、二十分で宮浦港の桟橋に接岸。

直島は周囲十六キロ・面積八平方キロ・人口三五〇〇人の島である。地名の由来は平安時代の保元の乱まで遡ると言われる。この乱で敗れた崇徳上皇が讃岐へと配流される途中この島に立ち寄った。その際島民達の素朴さに心打たれ、直島と命名したという。海運業・漁業・製塩業

を合わせ、神妙な面持ちで額にお印を頂いた。昨年亡くなった主人のお骨も眠る本堂に、今日の報告かたがた家族の無事のお礼に手を合わせる。無事行列が終わり、たくさんのお接待・記念撮影・たくさんの方とのふれあいが出来ました。朝からまともな食事をしてなかったため、お接待で頂いたうどんのおいしかったこと。思えば、住職を始め、この行事に携わってこられた方々の御苦労を感じながらお寺を後にしました。本

孫を始め私達家族にとって、良い思い出となる春の一日でした。

を中心に築えてきた島である。現在島内にはミュージアム・ホテル・レストラン・地中美術館等の施設があり、年間三十五万人が訪れている。宮浦港から見学先の直島環境センターへ出発、三分ほど走ると右手に白いモダンな建物が見えた。小学校と中学校のこと。そして間もなく大きな工場が目に入る。これが三菱マテリアル直島精錬所であり、この先は工場エリアの為に入ることにはできない。事前の見学予約者に限りバスで入ることが出来る。守衛で受付をして行くこと一段高い場所にカラフルな外壁の三階建ての環境センターに到着。一号車の人は二階へ、二号車の人は三階へ行き、案内説明を受ける。案内は女性の方で分かり易く説明され、工場内も設備が整いコンビユータ制御で十二時間勤務・二交代制で運転稼働している説明を聞いている時は理解して覚えていたが、次の案内を聞いてみると前に聞いた事を忘れて行く。家に帰っても話ができない。豊島の産廃は年に六七万トンあり一日三百トン運んでいます。

なぜ直島に処理施設を作ったか：高い技術を持つ工場がある。工場の電気や水道がある。処理が終わっても、施設の有効利用ができ、地域の活性化に繋がる。六七万トンを十年で処理する。安全に廃棄物を処理して資源を取り出し、公害を出さない中間処理施設であります。

案内して頂いたお二人の見送りを受け、十一時に工場を出てベネッセミュージアムへと向かい、車中よりキレイな海岸線を眺めながら到着。一号車の人は昼食、二号車の人は展示品の拝観。館内ではマイクが使用出来ず係員の説明が聞きづらい所もあったが、一人一人の方が作品を見て何かを感じてもらえばいいのだそう。地下に大きな丸い平らな大理石が二つ展示してあったが、カナダ



直島宮浦港より



極楽寺にて

から取り寄せた石だとのこと。裸の絵画を観られたでしょうか。これはアメリカのトムさんという人がベトナム戦争が激しくなり、暗い嫌な時代を明るくする為に描いた作品とのこと。

午後二時、ミュージアムを出発。雨がぼろぼろ降り出した。今回の参拝場所、極楽寺（本堂が町指定文化財）に到着。直島には、島の中に八十八体の小さな石仏が点在している。第一番札所が島で一番大きな極楽寺である。参拝団は本堂に半数、客殿に半数が交代で入り、般若心経の唱和と住職の説教を聞いてお寺を出た。御朱印を貰う者、梵鐘をつく者、境内周辺を散策する者、それぞれの時間が流れる。私は寺の横に鳥居が見えたのでそこへ行ってみた。参道には樹齢八〇〇年以上の大きな楠木があり、幹にお飾りが締められていた。石段は三段から五段で短い。距離は長い。女性四人連れに会い、上には祠がある良い所だと教えてくれた。本殿にお参りしてここを後にした。

さあ本日最後のイベントはお土産屋。バスの着いた宇野行きフェリー乗り場の横には買い物や喫茶のある「海の駅おしま」。九〇人が一気に売店にだれだれ込む。店員も目が回る程の忙しさ。乗船まで五〇分の待ち時間に、土産物をいっぱい買い、談笑に花が咲きながらフェリーに乗船。宇野港に四時二〇分に到着。予定通りの旅行の終わりに、また来年もお連れ様を誘われて多数のご参加をお願いします。本日はお疲れさまでした、とご住職の挨拶に車内は拍手で包まれ旅は締めくくられた。午後より天気が少し崩れましたが、全員無事に色々学んで帰ることが出来ました。皆様のご健康ご多幸と朝日寺の発展をお祈り申し上げます。南無大師遍照金剛

直島宮浦港より